

令和7年3月15日～3月23日において実施された「幹線道路建設に関する牧町民の意識調査結果」を基に以下、考察を述べます。

過去から検討が進められてきた「牧町バイパス道路（2016年～）」や「中部湖東幹線道路（2021年～）」における町民それぞれの『思い』にズレがあることから牧町の町民の皆さんが日頃感じておられる道路環境に関するご意見の把握を目的としてアンケートを実施させていただきました。

また、「滋賀県道路整備アクションプログラム2023」において『大津守山近江八幡線【(都)近江八幡能登川線】(水荃・大房)』としてバイパス整備(無電柱化)としてルート案が標記されていますが、着手時期は検討中とされ、令和7年2月に実施された岡山学区連合自治会東近江土木事務所要望会議において東近江土木事務所の所長より「地元総意のもとこのような道を作りたいといった方向性があるのはじめて道ができてくるものと考えている。地域のみなさんのご意見をまとめていただき、ルート選定をしてほしい。」とのご意見を頂いている事からも、牧町中部湖東幹線建設促進協議会では、今回実施したアンケート結果をふまえ『大津守山近江八幡線【(都)近江八幡能登川線】(水荃・大房)』のバイパス整備事業を前進させるべく取り組ませていただきます。

1. アンケートの目的と実施概要

今回実施させていただいたアンケートについては、「牧町を縦断する県道26号線(浜街道)に関する諸問題の検証」を目的として町内の18歳以上の住民527名(一部除く^{*1})に対し令和7年3月15日～3月23日に実施させていただきました。

2. 質問1～3 回答者の年齢・性別・居住地域について

- ✓ 各組・班別に個別の対象者を明示し、組長・班長から各戸へアンケートの趣旨説明と対象者数分のアンケート用紙を配布
- ✓ 実施期間において記載していただけたアンケート回答用紙を各組・班別に回収。
- ✓ アンケート配布数：527枚 に対し、回収数：412枚 回収率：78.2%
18歳以上の牧町町民の約8割の方から回答をいただく事ができました。
- ✓ アンケートの回収状況について、中部湖東幹線道路建設予定として公表されていた周辺となる2組(20.7%)、牧ヴィレッジ大房(40%)と回収率が低くなっています。
- ✓ アンケートの対象者を18歳以上全員としたため、牧町の年齢別人口統計が見え、70歳以上の方が37% 60歳以上が55%を占める超高齢化社会となっている事が判る。
- ✓ 男女比率については、男性(47.6%)、女性(52.4%)で均衡が取れているようですが、70歳以上で女性の割合が多くなっているため、今後、男女比率が反転してくる可能性があるように思われます。
- ✓ 居住地域については、県道26号線に隣接し、県道の影響をそのまま受ける方が約20%、県道の北側で湖周道路の影響を受けられる方が約45%。
県道の南側(現在の中部湖東幹線通過予定ルート側)にお住まいの方が約35%となっています。

3. 質問 4～5 回答者の町内・町外への移動初段について

- ✓ 町内に於ける主な移動手段については、徒歩が約 40%と最も多く、次いで車の約 35%で、バイク（原付含む）については、0.7%と少数派。
- ✓ 町外への移動手段については、車が約 85%を占めている。
次いで自転車が約 6%、公共交通機関が 3.2%でバイク（原付含む）は、0.5%と少数派に留まっている。

4. 質問 6 牧町をとりまく道路事情に満足しているかを質問。

質問 7 質問 6 で「いいえ」と答えた方に対し、不満な箇所を確認。

- ✓ 現在の道路事情に満足をされている方は約 12.9%で、約 9割近くの方が牧町をとりまく道路事情に何らかの不満を持たれています。
- ✓ 県道 26 号線は、国道 477 号線（野村町）から接続される県道で、旧浜街道として県南北の交通を支える主要地方道で、不満点としては「道幅が狭い」が約 5割を占め、道幅が狭いことに起因する「歩道が無い」「大型車両の通行」「対面通行できない」という不満を含めると、6割以上になります。次いで「歩行車の安全性」が 13.4%、「通行車両の速度が速い」が 4.9%で、主要地方道として十分な道幅が確保できていないことが不満点の要因になっていると推測される。
- ✓ 市・町道についても「道幅が狭い」が 63%を占め、「深い排水路」や「電柱」「路上駐車」等、道幅に関連する不満点を含めると、77.9%となる。
なお、牧町は古くから「川・水路」を中心とした生活が営まれ生活用水路が網羅されていたが、農地改善の際これらを埋め立て、道路が構成され、排水路が設けられている。また、生活道路となる細い町道を県道 26 号線が東西に横断（分断）しているため、町道を南北に移動するのは県道の横断が必須となるため、この点を不満とされている方が 3.2%おられた。
- ✓ 県・市・町道全般に関する不満点としては、「道路の安全策」が約 62%を占め、次いで「湖岸道路からの抜け道」として利用されている事に対する不満が約 26%となる。特に、牧町近辺における湖岸道路が事故や工事で混雑した際は、県道 26 号線への抜け道経路として離合の難しい牧町周辺の町道や農道を駆け抜けてくる車が多く、この点に不満を持たれていると考えられる。

5. 質問 8 町内の道路を移動中に「ヒャッ！」としたことがあるかを質問

- ✓ 回答を頂いた 7割以上の方が「はい」と回答。
- ✓ その時の移動手段を確認すると、「車」が 6割で、次いで「徒歩」が 25%、「自転車」が 13%となる。
- ✓ 「ヒャッ！」とした自由記述内容について確認すると、県道 26 号線や町内の町道において「見通しが悪い」「狭い道」「飛び出し」「速度が速い」「接触」等、重大な事故に繋がるようなキーワードが散見できる。

6. 質問9 牧町から（出る・入る）際、県道26号線の渋滞^{※2}に景況されたことが有るかを
確認。また影響があった際の影響と、抜け道利用の有無について確認。
- ✓ 回答を頂いた方の約6割の方が、影響を受けたと回答。
 - ✓ 影響の程度では、30分以内が約50%で30分～60分が約30%ですが、60分以上の遅延があったと答えられている方が14名（6.4%）おられました。
 - ✓ 遅延の際、抜け道の利用を考えられたのが約7割おられ、抜け道を利用した際、スムーズだった方が4割。同じく混んでいた方が約4割となっています。
また、抜け道を利用し、スムーズだった方が約40%おられますが、混んでいたと答えられている方も約45%おられ、この方々が、遅延影響が30分以上あったと答えられている事が推察できる。
なお、遅延影響を受けた方の約3割が26号線に隣接した地域に居住しておられ、この方々が抜け道利用を考えなかった約3割の方であると推察できます。
 - ✓ 影響を受けた方の居住地域を確認すると、県道26号線の北及び南に居住しておられる方の半数がこのような影響を受けた経験をお持ちですが、26号線に隣接した地域に居住されている場合、7割の方が影響を受けたと答えられています。
 - ✓ また、影響を受けたと答えられている方の年齢・性別属性を確認すると、影響を受けた約65%の方が69歳以下の男・女で、約19%の方が70歳以上の男となる事から、このような渋滞影響は主に通勤時間帯に発生していたものと考えられます。
7. 質問10 県道2号線の十王町～加茂町のバイパス化による周辺環境の変化を説明し、牧町を通る県道26号線のバイパスが必要かを質問
- ✓ 「必要」と答えた方が約54%、「どちらかと言えば必要」と答えた方を含めると、牧町を横断する県道26号線のバイパス道路は約88%の方が「必要」と回答。
8. 質問11-1 中部湖東幹線道路（無電柱・4車線化）建設の際、県道26号線の「バイパス道路」が必要と思われるかを質問
- ✓ 「必要」と答えた方が約54%、「どちらかと言えば必要」と答えた方を含めると、牧町を横断する県道26号線のバイパス道路は約88%の方が「必要」と回答。
- 質問11-2 中部湖東幹線道路（無電柱・4車線化）建設と合わせ、牧町内の道路整備として、町内の深い溝（排水溝）を埋め、道を拡幅する工事は必要かを質問
- ✓ 「必要」と答えた方が約56%、「どちらかと言えば必要」と答えた方を含めると、牧町を横断する県道26号線のバイパス道路は約90%の方が「必要」と回答。

※1 頭山麓及び岡山園地周辺住民（3戸）

※2 26号線上での離合困難の他、さざなみ街道の事故閉鎖に伴う抜け道による交通集中

以上